

令和5年秋の叙勲 アミン上院議員への伝達式：大使挨拶

Cerimônia de Outorga de Condecoração de Outono 2023

17 de abril de 2024

2024年4月17日

皆様、ようこそ日本大使公邸にお越し下さいました。

ブラジルの上院設立200周年の重要な節目を迎えたこの年に、日本・ブラジルの地域間 交流及び相互理解の促進に寄与されたエスペリディアン・アミン・エロウ・フィーリョ上院議員に叙勲を伝達できることを大変光栄に思います。

令和5年秋の叙勲において、エスペリディアン・アミン・エロウ・フィーリョ上院議員は「旭日中綬章」を受章されました。

アミン議員の地元であるサンタカタリーナ州では、1963年に州内フレイロジェリオ市に同州初となる日本人入植地であるラーモス移住地が設置されました。翌年、同移住地に長崎県被爆者7名を含む日本人が移住し、「被爆者の子孫の会」を創設。同会は1999年に「平和の鐘公園」建設計画を作成し、当時、サンタカタリーナ州知事であったアミン氏に相談したところ、アミン氏は自ら建設計画の委員長に就任し、計画を全面的に支援してくれました。州知事というだけでなく、小川和己氏との関係に象徴されるように、真の被爆者家族の友人として、同移住地に長年に亘り寄り添ってくれました。また、アミン氏は、州の内陸部に位置し、りんごやなしの生産地であるラーモス移住地の交通や物流を改善するため、隣接するマロンバス川を渡航するための大橋建設や近隣都市と接続するアスファルト道路を造成する等、インフラ整備を進め、同移住地の発展を支えてくれました。その結果、ラーモス移住地は、非核都市、日本文化の普及拠点、果実の一大生産地として発展していますが、これは、アミン州知事（当時）の存在があったからこそ成し遂げられたことでありました。

また、サンタカタリーナ州にはフロリアノポリス市に日系団体である「ニッポカタリネンセ協会」が存在しますが、その発足のためにもアミン州知事（当時）が尽力してくれました。同協会及び併設する日本語教室に必要な地所として、市内中心部のビル一室を無償貸与してくれた他、同協会に別の会場を無償

貸与して、同市初となる日本文化イベント「七夕祭り」の開催を実現しました。また、同州と青森県の姉妹都市関係を活発化すべく、ニッポカタリネンセ協会から青森県に交流員を派遣する事業を開始しました。このように、アミン氏は、サンタカタリーナ州と青森県の姉妹都市交流の活性化、同州における日系社会の発展、対日理解促進、日本文化普及に寄与されました。

アミン氏は、連邦下院議員であった際にも、日伯友好議連に加盟し、対日活動に尽力されてきました。その一例としては、日本人ブラジル移住100周年祝賀記念の際に、皇太子殿下のブラジルご訪問を迎えるべく、ブラジル全土で折り紙を制作する一大プロジェクトにおいて、サンタカタリーナ州内での制作を取りまとめてくれました。その際に折り紙で作成された巨大な日伯国旗は、今も下院本会議場の近くで見ることが出来ます。また、1995年の阪神・淡路大地震の犠牲者を追悼する演説を20分間行い、日本のような重要なパートナー国の災害に対してブラジル連邦議会が無関心であってはならないと力強く訴えてくれました。さらに、先週4月10日に上院において伯日議連の設立が決定されましたが、アミン議員はその報告官を務めてくれました。来年は日伯外交樹立130周年を迎えますが、設立されたばかりの上院の伯日議連とともに、アミン議員と力を合わせ、日伯関係を強化したいと存じます。

このようにアミン議員は真の日本の友人として、長年に亘り、日本、特にサンタカタリーナ州との関係強化に尽力されました。ところで、アミン議員は常に鶴のバッジを着用されているのを御存知でしょうか。本日もアミン議員の胸に光るこのバッジは、小川和己氏が生前にアミン議員に授与したもので、鶴は日本を代表する鳥であり、幸運と長寿の象徴です。このバッジには平和を願うラーモス移住者と子孫に敬意を示したいためというアミン議員の日本への思いも詰まっています。鶴のバッジに詰まった思いを次世代に共に繋げていけるよう、日本政府としてもアミン議員とともに平和を推進していきたいと思います。改めて、アミン氏の御功績に敬意を表し、御家族、友人をはじめ、協力してこられた関係者の皆様に感謝するとともに、今回の叙勲をお祝い申し上げます。